

ベトナム航空、福岡―ハノイ線増便、2月から週4便

ベトナム航空は2014年2月3日から、福岡―ハノイ線を2便増便し、週4便で運航すると発表した。現在は火、土曜日の週2便で運航しているが、月、金曜日にも増便する計画で、関係当局の認可が前提。

使用機材はエアバス A321 型機ビジネスクラス 16 席、エコノミークラス 162 席または 168 席)。ベトナム航空によると、同路線のロードファクターは平均で 75% から 80%。乗客の殆どがレジャー旅客であることより、増便での旅行者の利便性の向上を図る。また、修学旅行などの団体の増加や、タイからベトナム経由で日本を訪問するインバウンド需要が増えたことも、増便を決めた一因だという。

(トラベルビジョン)11/24

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59661>

ガルーダ・インドネシア航空、1-9 月期、収支 2200 万ドルの赤字

インドネシアの国営ガルーダ・インドネシア航空が通貨ルピア安に苦しんでいる。同社によると、今年1～9月の売上高は26億8000万ドル(約2712億円)で前年同期比12.6%増となった一方、為替相場でのルピア下落が響き、収支は2200万ドルの赤字となった。現地紙ジャカルタ・ポストが報じた。

ルピアは今年7～9月期の平均値が1ドル当たり1万670ルピアとなり、前期比で約9%下落した。ガルーダの幹部によると、同社は営業費用のほとんどをドル建てで処理しているため、通貨安の影響を受けやすい。ガルーダの1～9月の営業費用は26億6000万ドルで前年同期比16%増。営業費用全体の6割を占める航空機の運航費用は同20.5%増の16億ドルだった。

子会社を含めた同社の9月の搭乗客数は約200万人で前年同月比は17%増。このうちガルーダ本体では国際線が同1.2%減の27万8990人、国内線が同13.5%増の約130万人だった。一方、傘下の格安航空会社(LCC)のシティリンクは同55.2%増の38万4061人だった。

(産経 biz)11/25

<http://www.sankeibiz.jp/business/news/131125/bsk1311250606000-n1.htm>